

## えひめの歴史文化モノ語り

県歴史博収蔵資料から ㊦

現在、私たちの暮らしに、え、セルフサービス方式で身近な存在となったスーパーマーケット。スーパーマーケットとは、食品を主に、1930年代のアメリカに日用雑貨や衣料品などで、日本では東京の青山に家庭用品全般を取りそろえ、53(昭和28)年開店の「紀

ノ国屋」、県内では57(昭32)年開店の「主婦の店」(現在の松山市大街道1丁目)が最初とされている。「開店12月21日」の日付し

## 松山スーパーマーケット開店ポスター

松山市立花1丁目)の文字情報をもとに愛媛新聞の記事を調べてゆくと、57(昭和32)年12月20日付に松山スーパーマーケットの開店広告を見つけたことができた。今から64年前、スー

## 黎明期の大规模小売店

今回紹介するのは、鮮やかな赤色の背景と左端いつ「元高市商店跡地」(現在の

「食料品」「家庭用品一切」「現金で大量仕入」「なぜに安いのか?」「奥様方の必ずお気にめす値段」「エプロンで気軽に!」のキャッチフレーズが躍っている。全体的に昭和30年代に特徴的な丸みや流線形のデザインが見てとれる。

開店日の下には小さく「開店日より五日間五百円御賞上毎に映画の御招待券ひしめき合っていた。映画の招待券がスーパーマーケット開店の客引きに利用されたのも、そんな時代背景があったからだろう。このポスターには、「松山浴場協同組合」の押印があり、銭湯に貼られていたものと考えられる。湯上がりの人々が目にしたこのポスターは、スーパーマーケットに多くのお客さんをお招いてくれたことだろう。



松山スーパーマーケット開店ポスター。1957(昭和32)年。県歴史文化博物館蔵

(専門学会員・宇都宮美紀)  
△随時掲載します▽

中央には、エプロン姿の母親と女の子がおしゃれな包装紙に包まれた商品を抱えて楽しげに歩く姿が描かれている。その周りには、